

各市町村長 様
各市町村議会議長 様

(陳情団体) 愛知自治体キャラバン実行委員会
代表者 徳田 秋
名古屋市熱田区沢下町9-7
労働会館東館3階301号

介護・福祉・医療など社会保障の施策拡充についての陳情書

【趣旨】

医療、福祉、介護、年金など社会保障の相次ぐ改悪や派遣切り・リストラなどにより、国民のいのちと暮らしが脅かされています。その結果、生活不安・破綻、家族崩壊などが増加し、自殺、介護殺人など悲惨な状況が後を絶ちません。

「姥捨て山制度」といわれている後期高齢者医療制度も発足後2年目に入りましたが、この制度を「廃止せよ」の怒りの声はさらに広がっています。

施設になかなか入所できず、介護サービスの利用制限など問題山積みの介護保険も、4月からの新たな介護認定基準の導入で、利用者の不安が一層広がっています。

私たちは、各市町村が医療や福祉の切り捨てや民間委託など自治体リストラをすすめることなく、国の悪政から住民のいのちと健康、暮らしを守る砦としての役割をはたしていくために、以下の事項について改善をお願いします。

【陳情事項】

【1】自治体の基本的あり方について

- ①憲法第25条、地方自治法第1条をふまえて、医療・介護・福祉など社会保障施策の充実をすすめてください。
- ②各種の臨時交付金などは時限措置でなく、恒久的な制度となるよう国に要望するとともに、国からの交付がなくなっても、市町村独自に施策を継続実施してください。
- ③税滞納世帯等への行政サービス制限条例は導入しないでください。

【2】以下の事項を実現し、市町村の福祉施策を充実してください。

1. 安心できる介護保障について

(1) 介護保険について

- ①低所得者に対する介護保険料の減免制度を実施・拡充してください。とくに、住民税非課税、介護保険料普通徴収の高齢者、無年金者への配慮をつよめてください。

「法により、所得に応じて8段階とし町独自の制度は設けない。」

- ②低所得者に対する利用料の減免制度を実施・拡充してください。

「法のと通りの減免とし、町独自の制度は設けない。」

③新基準による要介護認定について

ア. 10月からの「見直し」による介護認定が4月からの新規の認定者も含めて「利用者不在」の認定にならないよう必要な措置を講じてください。

「国の認定基準に従い認定を行う。」

イ. 要介護認定者やその家族・関係者などにわかりやすい説明書を配布してください。

「要介護認定申請時に、パンフレットを配布し同時に口答で詳細説明をしている。」

ウ. 認定調査員をはじめ介護サービス従事者に「見直し」内容の研修、説明会をおこない現場の混乱がおきないようにしてください。

「国県等にて開催される研修会等の情報を提供し積極的に参加している。」

④特別養護老人ホームや小規模多機能施設など施設・在宅サービスの基盤整備を早急におこなってください。基盤設備が円滑に進み、低所得者・医療依存度の高い利用者の入所が確保できるよう助成制度を設けてください。

「国県の補助事業を利用する事業者がいれば、町として国県へ補助金の交付申請を行う。また、助成制度は考えていない。」

⑤介護労働者を確保するために、適正な賃金・労働条件および研修について、財政的な支援をしてください。

「県等が主催する研修のほか、知多南部2市4町共同で、事業者間の連絡協議会及び従事者の資質の向上を図るため、研修会を実施している。」

(2) 高齢者福祉施策の充実について

① 配食サービスは、料金を引き上げることなく毎日最低1回の配食を実施し、あわせて、閉じこもりを予防するため会食(ふれあい)方式も含め実施してください。

「今のところ料金の引き上げは考えていない。週5回を限度に一日1回昼食について実施している。会食については、地域のボランティア団体に委託して実施している。」

② 高齢者が地域でいきいきと生活するために、以下の施策を一般財源で実施してください。

ア. 敬老パスや地域巡回バスなどの外出支援

「美浜町巡回ミニバス(行ってきバス)を運行している。」

イ. 宅老所、街角サロンなど的高齢者の集まりの場への援助など多面的な施策の拡充

「美浜町老人憩いの家設置費補助金交付要綱を定め、施設、設備等の援助を実施している。」

(3) 障がい者控除の認定について

- ①介護保険のすべての要介護認定者を障がい者控除の対象としてください。

「要介護認定者で障害者認定と同レベル以上の者を対象にしている。」

- ②すべての要介護認定者に「障害者控除対象者認定書」または「障害者控除対象者認定申請書」を個別に送付してください。

「対象者に送付している。」

2. 高齢者医療などの充実について

- ①後期高齢者医療対象者の医療費負担を無料にしてください。少なくとも、非課税世帯は医療費負担が無料となるように、福祉給付金(後期高齢者福祉医療費給付)制度の対象を拡大してください。

「後期高齢者福祉医療制度でひとり暮らし非課税者を対象としています。その他の人は対象としていません。」

- ②70歳から74歳の高齢者が2割負担になった場合、1割分を助成して、自己負担を1割負担に据え置いてください。

「現時点での考えはありません。」

- ③後期高齢者医療制度の保険料滞納者に対する保険証の取り上げ・資格証明書の発行をしないでください

「現在、資格証明書の発行は1件もありません。これからも実情をよく捉え広域連合に伝え、対応していきたい。」

- ④後期高齢者医療制度に加入しない65～74歳の障がい者には、障害者医療費助成制度を適用してください。

「適用していません。県に対して意見書は出しています。」

- ⑤肺炎球菌ワクチンの接種費用の助成制度を設けてください。

「実施していません。」

3. 子育て支援について

- ①中学校卒業まで医療費無料制度を現物給付(窓口無料)で実施してください。

「平成20年10月から小学校3年生までの現物給付を実施しています。」

- ②妊産婦健診は、産前14回、産後1回を無料で受けられるように助成してください。超音波検査は、厚労省通知に示されているように、最低4回を年齢制限なしに助成してください。

「妊婦健診について、平成21年度より従来の内容で14回補助し、産婦健診については、20年度より従来の内容で1回補助している。超音波等の検診内容については検討していきたい。」

③ヒブワクチンの任意予防接種の費用を助成する制度を設けてください。

「今のところ情報収集をしている。今後に向けて検討していきたい」

④就学援助制度の対象を生活保護基準額の少なくとも1.3倍以下の世帯までとしてください。また、申請の受付は、学校だけでなく市町村の窓口でも受け付けてください。

「就学援助は生活保護基準額の1.3倍で対応しています。また、申請の受付は市町村窓口と学校のどちらでも対応しています。」

4. 国保の改善について

①保険料(税)について

ア. これまで以上に一般会計からの繰り入れをおこない、保険料(税)の引き上げを行わず、減免制度を拡充し、払える保険料にしてください。

「保険料(税)は平成20年度に6割・4割を7割・5割・2割軽減とし、適用範囲を拡充する改正を行いましたので、減免制度については現行どおりでご理解願いたい。」

イ. 少子化対策として就学前の子どもについては、均等割の対象としないでください。

「保険料(税)の対象外の考えは持っていません。」

ウ. 前年所得が生活保護基準額の1.3倍以下の世帯に対する減免制度を設けてください。

「現行どおりの減免制度の考えであります。」

エ. 所得激減による減免要件は、「前年所得が1,000万円以下で、当年の見込所得が500万円以下、かつ前年所得の10分の9以下」にしてください。

「現行の減免規定の適用と考えている。」

②保険料(税)滞納者への対応について

ア. 資格証明書の発行をやめてください。とりわけ、18歳の年度末までの子どものいる世帯、母子家庭や障がい者のいる世帯、病弱者のいる世帯には、絶対に発行しないでください。なお、義務教育終了前の子どもについては、窓口交付だけでなく、郵送も含め1枚も残すことなく保険証を届けてください。

「国民健康法の主旨に基づいて進めていきたいと考えている。なお、福祉医療の該当者へは、短期の保険証で対応している。また、義務教育終了前の子どもについては、短期証を交付する。」

イ. 保険料(税)を支払う意思があつて分納している世帯には、正規の保険証を交付してください。

「現時点では短期証の交付で考えている。」

ウ. 保険料(税)を払いきれない加入者の生活実態の把握に努め、加入者の生活実態を無視した保険料(税)の徴収や差押えなど制裁行政をしないでください。

「加入者への納付相談は実施する。」

③一部負担金の減免制度については、生活保護基準額の1.3倍以下の世帯に対しても実施してください。また、一部負担金の減免制度の案内チラシ・申請書などは、行政窓口および医療機関の窓口におくなど、制度を広く住民に周知してください。

「規定を検討中である。」

5. 障がい者施策の充実について

① 障がい福祉サービス、自立支援医療、補装具の利用料負担、施設での食費などの負担を、市町村独自に軽減してください。

「障害福祉サービス等の利用負担は、法で定められており、町独自の軽減は考えていない。」

② 市町村が行っている地域生活支援事業(移動支援・地域活動支援センター・日常生活用具等)の利用料をなくして下さい。

「障害者自立支援法のサービス負担上限額を使用しており、利用料をなくすることは考えていない。」

③ 親亡き後の障がい者の生活を守るために、ケアホーム・グループホームの建設・設置費補助、運営費補助を市町村単独で行ってください。

「現時点では、考えていない。」

6. 健診事業について

① 特定健診、がん検診、歯周疾患検診の自己負担金を無料としてください。また、実施期間は通年とし、個別医療機関委託・集団健診をともに実施してください。

「特定健診、歯周疾患検診については無料。がん検診については、かかる費用単価の三分の一程度の自己負担とし、負担がかからないよう配慮している。」

② 40歳未満の住民を対象に健康診査を自己負担無料で実施してください。

「40歳未満の住民に対して、特定健診に近い内容の健診を500円で実施している。」

③ 歯周疾患検診を毎年無料で受けられるようにしてください。

「現在、無料で実施。集団検診と同時実施するなど受診しやすいよう、心がけている。」

7. 生活保護について

- ① 憲法25条および生活保護法に基づいて、生活保護申請を認めない或いは妨害することのないようにしてください。また、保護が必要な人には早急に支給してください。

「生活保護費の支給決定は、県で行っている。」

- ② 愛知県通知(2008年12月11日)に基づき、稼働能力や居住地のないことを理由に生活保護申請を拒否することのないようにしてください。

「申請があれば、県に進達する。」

- ③ そのために、専門職を含む正規職員を早急に増やしてください。

「正規職員を増やす考えはない。」

【3】国および愛知県・広域連合に、以下の趣旨の意見書・要望書を提出してください。

1. 国に対する意見書・要望書

- ① 宙に浮いた年金問題を全面解決し、全額国庫負担による「最低保障年金制度」の創設、受給資格年限を短縮し、安心してくらせる年金制度を確立してください。また、社会保険庁の解体をやめ、民営化は凍結してください。
- ② 後期高齢者医療制度は廃止してください。国民健康保険への国庫負担を増額してください。
- ③ 介護保険への国庫負担を増やして、負担の軽減と給付の改善をすすめてください。介護認定基準を元に戻してください。介護労働者の処遇を改善し、働き続けられるようにしてください。
- ④ 義務教育終了までの医療費無料制度を創設してください。現物給付による子どもの医療費助成に対し国民健康保険の国庫負担金を減額しないでください。妊産婦健診の補助金を拡充してください。
- ⑤ 消費税の引き上げは行わないでください。
- ⑥ 社会保障費2200億円の削減方針を撤回してください。また、これまでの医療費抑制策で崩壊寸前の医療現場を救うために、国の責任で医師・看護師不足を解消してください。
- ⑦ 障害者自立支援法を早急に廃止し、障害者総合福祉法を制定してください。
- ⑧ 介護保険サービス利用者とされている、65歳以上の障害者および40歳以上の16特定疾病該当者のうち障害として認定されているものに対して、介護保険を優先適用するのではなく障害者施策を優先適用してください。

「①～⑧ 意見、要望を尊重し検討していきます。」

2. 愛知県に対する意見書・要望書

- ① 後期高齢者医療制度を選択しない65～74歳の障がい者にも、障害者医療費助成制度を適用してください。
- ② 後期高齢者医療対象者の医療費負担を無料にするための医療費助成制度を設けてください。当面、非課税世帯は医療費負担が無料となるように、福祉給付金(後期高齢者福祉医療

費給付)制度の対象を拡大してください。

- ③70歳から74歳の高齢者が2割負担になった場合、自己負担を1割負担に据え置くために、1割分を助成する医療費助成制度を設けてください。
- ④後期高齢者の健康診査事業に県として補助金を出してください。
- ⑤子どもの医療費助成制度の対象を通院についても中学校卒業まで拡大してください。
- ⑥国民健康保険への県の補助金を増額してください。
- ⑦精神障がいがある人の医療費助成は、一般疾病も対象にしてください。
- ⑧障害福祉サービス・自立支援医療・補装具の利用料負担、施設での食費などの実費負担、市町村が行う地域生活支援事業の利用料負担を無くしてください。

「①～⑧ 意見、要望を尊重し検討していきます。」

3. 愛知県後期高齢者医療広域連合に対する意見書・要望書

- ①愛知県に健康診査事業への補助を行うように要請してください。
- ②低所得者に対する独自の保険料および一部負担金の減免制度を設けてください。
- ③保険料滞納者への保険証取り上げ・資格証明書の発行は行わないでください。
- ④後期高齢者の意志が十分反映できる制度的保障として、後期高齢者の代表を含む後期高齢者医療制度運営協議会(仮称)を設置してください。

「①～④ 意見、要望を尊重し検討していきます。」

以上